麻布大学を訪問した国立台湾大学獣医学部大学院生のレポート

学生氏名：陳 育萱（獣医学部付属病院獣医師）

今年 6 月 13～27 日，自分を含めた台湾大学獣医学部学生 4 名で麻布大学を訪問し、獣医学科の各種実習に参加しました。大学は神奈川県相模原市に位置し、JR 横浜線淵野辺駅から徒歩約 10 分、矢部駅からは約 5 分のところにあります。キャンパスの広さは 11ha、学部は獣医学部と生命環境科学学部の 2 学部があります。この大学は 1890 年に麻布獣医学校として創立され、1947 年に現在の位置に移転しました。

麻布大学の校内を見ると、百年以上の古い大学には見えません。なぜなら学内の設備は現代的で、実習室は明るく、更衣室、浴室なども設備されているからです。麻布大学付属動物病院での実習は、私たちにとって大変印象的でした。

学生実習の設備も充実しており、材料、実験動物および機器などにかなり費用がかけられていることが分かりました。産業動物診療の教育も、小動物のそれと同等に充実していました。このことが、麻布大学では比較的多くの学生が産業動物診療に興味を持つようになることの理由だと思われました。台湾の獣医教育においても、より多くの学生達に大動物診療実習の機会が与えられることを切望します。麻布大学家畜病院の先生や研修獣医師の方々は非常に熱心で、一人一人の学生にきめ細かに対応していました。

学生氏名：李 柏穎（大学院修士課程二年）

動物病院での実習について、診察や治療が無駄なく速やかに進められ、X 線や超音波検査の機械なども高性能なものが十分に設備されており、検査に要する時間が短いことが印象的でした。この動物病院は二次診療制で、患畜情報は事前に知らされているため、治療は順調に進展していました。台湾の学生達は日本語があまりできないため、麻布大学の先生、研修獣医師、あるいは学生の方々が限られた英語で症例を説明してくれました。麻布大学の獣医学部学生は、卒業論文を書くために三年時に研究室に入らなければなりませんが、診療に携わった人達は英語をよく話します。治療前後に行われる討論も非常に印象的でした。

その中で、放射線腫瘍科の診療が最も印象に残りました。患畜が来院すると、それぞれの決まった操作が順序良くに実施されます。例えば、採材すべきものはすばやく採材され、CT を取るべき症例では迅速に取られ、化学治療が必要な症例ではすぐに投薬されます。診療後の症例討論も活発でした。担当の圓尾先生は放射線による腫瘍治療の実績がかなり豊富で、しかも学会でも活躍している先生でした。

実習後は、居酒屋でお酒も加わって歓談を楽しんだり、回転寿司などの美味しい日本料理を食べたりしました。これらは忘れられない思い出です。今後も麻布大学と台湾大学の間で、より多くの協力と交流が永く続くことを希望します。